

本県の気候風土に適した早生樹に関する調査研究（2）

予算区分：県 単	研究期間：令和元～4年度	担 当：森林科学係 小野里 光
----------	--------------	-----------------

コウヨウザンのコンテナ育苗試験

I はじめに

近年、スギやヒノキに代わる新たな造林樹種としてコウヨウザンなどの早生樹が注目されているが、本県ではコウヨウザンの育苗にかかる調査事例は見受けられない。

今年度はコウヨウザンのマルチキャビティコンテナ（以下、コンテナ）による育苗試験を実施した。

II 方 法

1 材料

コウヨウザンの苗は、令和元年に林木育種場に植栽されているコウヨウザンから採穂した挿し木1年生とした。コンテナ容器は、150cc、150ccスリット、300ccの3種類を用いた。

2 方法

令和2年4月に林木育種場から林業試験場にコンテナ苗を移動し、1日に2回散水を行った。施肥は表-1のとおり、固形（プロミック「いろいろな植物用」(12-12-12)1.5g/個）は多で2個、少は1個の2種類、液（「ハイボネックス微粉」1000倍液）は100ccの1種類で計3種類とし、固形は2ヶ月に1回（多は7月に固形が残っていたので8月に施肥）、液は2週間に1回施用することとした。

表-1 コウヨウザンのコンテナ育苗試験

施肥	コンテナ苗			期間	
	150 普通	150 スリット	300 普通		
固形※1	多(1.5g*3)	20	20	18	5月1回、8月1回
	少(1.5g)	20	20	20	5月1回、7月1回
液※2	ハイボ微粉 (100cc)	0	0	24	5月8日から10月26日まで 約2週間おき計13回
対照（施肥無）		0	0	24	
計		40	40	86	

※1 固形;プロミック「いろいろな植物用」(12-12-12)1.5g/個。

※2 液;ハイボ微粉100cc。

3 測定日および方法

2020年4月27日及び12月7日に苗高及び根元直径を測定し、成長量を調査した。

III 結果及び考察

調査結果は表-2のとおり。活着率は固形多の150ccスリット以外は80%以上であった。平均苗高は、施肥が固形の苗はいずれも20cm以上の成長量を示したが、液の苗は対照と同様であった。平均根元径は、固形多の300ccの苗の成長量が最も良好な結果を示したが、液の苗は対照と同様であった。

表-2 コウヨウザンのコンテナ育苗試験結果

施肥	コンテナ容器		4月			12月			成長量		
	容量	形状	本数	平均苗高cm	平均根元径mm	本数	活着率%	平均苗高cm	平均根元径mm	平均苗高cm	平均根元径mm
固型多	150	普通	20	19.0	4.2	16	80.0	41.8	5.9	22.8	1.7
		スリット	19	14.4	4.3	9	47.4	40.2	5.7	25.8	1.4
	300	普通	18	15.6	3.9	16	88.9	44.4	6.9	28.8	3.0
固型少	150	普通	20	13.7	3.9	17	85.0	34.0	5.2	20.4	1.3
		スリット	20	14.0	4.8	18	90.0	42.3	5.9	28.3	1.0
	300	普通	20	13.3	4.8	19	95.0	38.7	5.6	25.5	0.9
液	300	普通	24	14.6	4.8	22	91.7	19.9	4.8	5.3	0.0
対照(無)	300	普通	24	12.5	4.1	12	50.0	16.4	4.4	3.9	0.3

※施肥:固形;プロミック「いろいろな植物用」(12-12-12)。施肥量;多:1.5g3粒、少:1.5g1粒。液;ハイボ微粉100cc。

実施時期;固形多:5月、8月、固形少:5月、7月。液:5月8日から10月26日まで約2週間おき計13回